

令和7年度 専門学校静岡電子情報カレッジ 第39期生 静岡福祉医療専門学校 第27期生

Congratulations on Your Graduation!!

理事長・校長 中村 徹

桜花芽吹くこの佳き日に、令和7年度本学両校の栄えある卒業生の皆さん、修業年限2年と3年制の工業・商業、医療、介護・福祉、保育・幼児教育各分野の「**職業実践専門課程**」を修了し、文部科学省高等職業教育の「**卒業証書**」及び「**専門士の称号**」授与に、静岡福祉医療専門学校の卒業生は併せて、厚生労働省の各「**職業養成課程修了と国家資格又は受験資格**」修得と取得おめでとうございます。

皆さんの多くは、高校生活から引き続き本学の学校生活において、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの中で過ごし、何らかの形で大きな影響を受けた中でも、たゆまぬ努力を重ねて専門スキルを身に付け、本日を迎えられた強い精神力を讃えます。

また、この想定外の状況に直面しつつ、学習や研究の目標を達成したその経験は、乗り越えた苦勞の分だけ、皆がこれからの人生を歩んでいく上での大きな力となります。

特に、留学生は、母国を離れ、言葉や文化、環境が異なる日本での生活は不安な日々の中、前向きな姿勢と異文化と協調する能力の高さに深い感銘を受けました。

さて、本学での集大成として、皆さんが本学入学時の目標であったキャリアデザインの具現化の一步を今ここに踏み出されようとしております。

皆さんは本学独自の専門職中核的人材育成教育に、最先端ICT、映像音響エンタメ、医療、福祉・介護や幼児教育・保育等の第一線の各業界人の指導を受け、**産学連携の「実践的職業教育プログラム**」により育成されたスペシャリストとして社会へ旅立つところまでできたのです。これからはしっかりと社会的責任を自覚し、社会での評価を得て、本学の教えでもある「**仕事を通して自己実現を図る**」の具現化、その道の「**達人**」を目指してください。

大きな転換期 2025年度を振り返る

今年度は国内外の出来事が互いに影響し合い、我々の生活、政治、外交、自然そして私たちの「これからの在り方」を問い直す節目の年となった。

わが国では少子高齢化と人口減少が、将来へ向けての最も大きな「課題」となり、AIに代表される新たなテクノロジーによる作業の効率化や生産性向上により、ポジティブにむしろ生活をより豊かにしていく。すなわち、「課題」を解決する前向きな取り組みの中に新たなビジネスチャンスがある。

そして、海外へ目を向けるとイラン、ウクライナやガザ地区など、国家・民族間の争いが絶えず、長引く世界情勢の緊迫を背景に輸入原材料や原油価格の高騰が続き、加えて米ドル円相場は1\$ = 150円台半ばを付け、円安傾向も物価高騰に大きな影響を与え

ている。また、経済面でも日経平均株価がついに史上初の5万円の台突破。

日本初の女性総理高市政権誕生により、労働不足への対応や社会保障制度改革の検討も進み、社会全体の持続可能な成長に繋がっている。問題は世界を振り回すトランプ政権への対応だ。

さらに、猛暑や暴風雨災害など、まさに環境破壊や温暖化、災害の頻発・多様化など、地球規模で解決しなければならない「課題」が、身近に数多く存在している。

4月から半年間、国内外から3,000万人が訪れ開催されたいのち輝く未来「大阪万博」SDGsへの意識が日常に溶け込むきっかけとなったこの祭典は、私たちの心に「希望の種」を植えてくれた。

地球を救うSDGsの2030年も残すところ5年、ラストスパートです。

人生100年時代

社会に出てからも学び続ける。「新たな知識を常に取り入れていくこと」ブラッシュアップが日々の生活の中に求められる。要するに、本学の卒業は、人生の節目ではあるが、「学び」からの卒業ではなく、社会人として、生かされている者として、むしろ「一生を通して自己実現を図る」、「試行錯誤の中からクリエイティブな精神を培う」という本学の教えを、社会において新たな知識の獲得と創造のスタートラインに立ったということなのです。

今後は目指せ「希少性の高い人材」なのです。その道だけを究めるのではなく、知識の幅を広げるために、別のスキルを身につける方向にシフトしていくのです。今有しているA専門スキルに近いB専門スキル、次は「マーケットバリュー」のあるC専門スキルというふうに「希少性」を考えて戦略的に身につけることにより、より「希少価値の高い人材」を目指すことができるのです。

学校生活の集大成 SDGs CANスカラシップフィールドスタディ

CANスカラシップ：フィールドスタディの活動、卒業研究・ゼミナール、ケアスタディ・臨地実習報告・発表会においては、各学科、各コースの特性を大いに活かし、「時代に即した、将来に向けた研究テーマ」が設定され、研究に携わった一人ひとりの個性と知識・見識を集結し、試行錯誤の中からプレゼンの完成度も高めた。この研究を通して、クリエイティブな精神をより培い、まさに本学の「**建学の精神**」の具現化を図っている。この機会は今後益々高度化する現代社会で、社会人となる皆に求められるものを創造する難しさを痛感させ、自らの力を見つめ直し、社会に一步を踏み出す大きな「**自信**」につながる大変有意義な機会となったはずだ。

専門学校静岡電子情報カレッジでは「モノづくりの醍醐味」につなげる制作プロセスやターゲット設定、コンテンツとの整合性のスキーム発表内容であった。面白いアイデアと自分たちのスキルを追求した作品で全体のクオリティも高かった。

今後は Society5.0：ICT、IoT、ビッグデータ、AI、ロボット、メタバース等のデジタル革新による「生産性向上」だけでなく「社会のありよう」まで変えようとする提唱。この分野での先導的継続研究に期待する。また、**静岡福祉医療専門学校**では「時代に即

したテーマや背景が**色濃く反映**され、そのプレゼン技法にも創意工夫が見られ、大変感激させられた。各学科ともこれまでの**学びの姿勢や探究心**に満ち溢れ、それぞれの**職業観**がよく表現され、「若い感性」による上達したプレゼンに称賛の拍手を送った。

そして、今後も研鑽重ね、「**スペシャリスト**」としての道を切り拓いていただきたい。**残してくれたみんなの集大成は、本学の貴重な財産である！！**

プレゼンを通しての高評価は、学生だけに留まらず、我々教職員にも大きな「**自信**」となり、これからの学生指導への大きな「**励み**」となった。

この成果は次年度に継承され、今年度以上の大きな成果を期待するところだ。特に、電子の「**産学連携プログラム**」や「**コラボによる付加価値創造**」につながるレベルの研究、福祉においては「**地域に開かれた専門学校**」に基づく「**ボランティア：地域活動**」等の**後輩への継承**を強く期待する。

昨年に続き海外研修修学旅行「台北」

今年は電子と福祉が同一日程で実施。

電子は台北城市科技大学、福祉は輔仁大学学生との異文化交流を通して、国際社会が直面する現代社会の課題、国相互の職業観の共通点・相違点の比較・考察、グローバルな課題解決等からSDGsからSWGsへ、「Well Being」持続可能な社会実現に向け何ができるかを考察、探究する。

まとめに「**人づくり60年**」の生涯教育者であった本学園創設者の教えである **I was born. Keep alive. 「人は、生まれ、生かされている」、「人は誰もが、無限の可能性を秘めている**」ゆえに、「日本人としてのアイデンティティを持ち、仕事を通して自己実現を図る」。「**これだけの事をやったんだ**」という「**自信**」と「**誇り**」を持って、「**試行錯誤**」の中から「**自己実現**」を図るのです。君たちの時代を築いてください。もし皆さんが人生の中で困難に直面し、立ち止まった時には、気楽に本学に戻ってきて下さい。本学は皆さんが戻ってきて、共に考え、社会にリスタートできる基盤となるべく準備をして待っております。

そのためにもプロフェッショナルとしての卒業生の皆さんの力で、本学の実践的職業教育「**人づくり**」を社会から支えて頂きたい。卒業生の皆さんは今後も本学をよりよくするための大切な人的インフラです。

これは、**卒業生だからこそできることなんです。**

そして、たまには学校に寄って、元気な顔を見せて下さい。

最後に、このように令和7年度「**卒業証書授与式**」を迎えられることができたことを、まずは卒業生のみんなに敬意を表するとともに、卒業生とともにここまで学校生活を支えていただいた保護者の皆さん、また、今日の日を迎えられるよう尽力頂いた在校生及び教職員に対して心より感謝申し上げます。

それでは、健康には十分留意され、

君たちの新たな旅立ちに、心より幸多きことを祈る！

Bon Voyage



学校法人 中村学園
専門学校 静岡電子情報カレッジ
静岡福祉医療専門学校

2026
令和8年
3月号特集号

CANジューナル

クト編『仕事の報酬は仕事 ～“感動”の仕掛人たち～』(2004年11月19日発行)。近年でも同社採用担当者は「実バンダイの伝統的な格言に、『仕事の報酬は仕事』というものがあります」と、「バンダイのDNA」として紹介しています。皆さんも「貢献(価値提供)≠成長(自己実現)」の両輪を回すサイクルを、「私の流儀」にしてください。

さて、その際に、後者の「Learning agility (ラーニング・アジリティ)」が不可欠です。変化が激しく、また正解のない時代での「学び続ける力」は、「新しい環境や経験から素早く学び、それらを未知の問題に応用することができる能力」です。これまでの常識を疑う勇氣、新たな知識を吸収していく意気込みで「学び方」を磨き、成果に繋げる、そして「あなたの市場価値」を高めていってください。

IT ゲーム&ロボットシステム学科 原木 伴美

2ITのみなさん、ご卒業おめでとうございます。

私はこの一年、皆さんの優しさと暖かさに、何度も救われました。誰かを自然に気遣い、大切にできることは、とても価値のある力だと思います。

専門学校での2年間で、できることが増えた人も、まだ自信が持てない人も、それぞれが確実に成長してきましたね。人と比べずにあなたのペースで、あなたらしく進んでいけば大丈夫です。うまくいかない日があっても、今日までの努力と仲間を思う気持ちを忘れないでください。そして、何か困ったときは、ここで過ごした時間を思い出してぜひ友達や私たちに頼ってください。

卒業を迎え、正直寂しい気持ちもありますが、それ以上に皆さんの未来が楽しみです。皆さんを担任できたことを、心から誇りに思っています。

これから社会に出ると、今までにない事柄に直面することもあるでしょう。でも、そのすべてが皆さんにとって意味のある経験になります。物事はすべて日々の積み重ねです。良いことが積み重なれば自信につながり、さらに成長できるでしょう。逆に困難が続くこともあるかもしれませんが、それは新たな挑戦の機会です。大切なのは、立ち止まっても前を向き、一歩ずつ進むことです。自分を甘やかさすぎず、乗り越えていってください。皆さんの未来が輝かしいものになることを心から願っています。

音響&映像メディアクリエイト学科 五味 正太郎

みなさん、ご卒業おめでとうございます。

この2年間で皆さんと一緒に過ごし、大変だったことや嬉しかったことなど多くの姿を見てきました。その中でも、放課後や学校行事で笑い合っている姿がとても印象的でした。笑顔で話してくれるみなさんと関わる時間は私自身もとても楽しかったです。ありがとう。

みなさんは今日をもって卒業していきます。学生と社会人では壁の大きさが違います。困った時や疲れた時には、今と変わらずクラスの仲間と相談してみてください。きっと力になってくれるはずです。また、今と変わらない姿で相談や近況の報告してくれること、姿を見せてくれることを私たち教員も楽しみに待っています。みなさんのこれからの活躍、さらなる成長に期待をしています。2年間本当にありがとう。

総合福祉学科 井川 真世

ご卒業おめでとうございます。

この3年間の日々は、決して平坦なものではなかったはずです。悩み、迷い、立ち止まりながらも、人と向き合い、自分と向き合い続けてきた時間は、確かな力となったことでしょう。これから皆さんは「支える側」に立つ責任と誇

担任の先生からのメッセージ

副校長 有賀 浩

卒業おめでとう！

この令和7年度、職業教育の要であるフィールドスタディーを通じて多くの成果が残せた1年間となりました。昨年度以上に内容を充実させた台湾への海外研修旅行。産学官連携に加え、AIを活用した各種システム開発で学びの成果を具現化した卒業研究、ゼミナール活動。姉妹校第一ひかり幼稚園でのICT教室や地域連携のイベントへの参画。それらすべてが学生の皆さんの力となり、大きく成長し、その姿に幾度も感動させられました。心から嬉しく、また感謝の気持ちでいっぱいです。

AIの活用が更に進み、あらゆる分野でDXが普及。本学もこの状況にあわせて令和8年度よりAI×DXプロデュース専攻科を設置し、対応できる人材を育成します。

いよいよ4月からプロフェッショナルとしての人生を歩み始める卒業生の皆さん。如何なる時代にあっても、本学の「全人教育」を通して身につけた「自信」と、元氣よく笑顔で心から湧き出す「挨拶」で、明るい未来を築き、大きな幸せをも創造して下さい！

いつまでも「理想」を失わず、校訓「技術は力なり、我が道を行く How to 人間ではなく Why 人間の養成」の下、仕事を通して常に自己を成長させて行って下さい。

みなさんの素敵な笑顔に再会できる日を、楽しみにしています！！

教頭 富田 順子

ご卒業おめでとうございます。

中村学園で出会った仲間は、皆さんにとって将来にわたって付き合うことのできるかけがえのない友になったのではないのでしょうか。これから先、就職・趣味・結婚・子育てなどの様々なシーンで、楽しい時も大変な時もきっと大切な絆となって、皆さんに力を与えるはずです。何かあったときにはぜひこの絆を思い出してほしいと願っています。

また、上手く最短距離で歩いていくことも可能ですが、失敗をしたり回り道をした方が、より多くの経験を積むことができます。失敗を恐れず、何事にも積極的に挑戦してみてください。たとえ失敗を重ねることになっても、その過程で学んだことは全て皆さんの糧として積み重なり、人生を豊かなものにしてくれると思います。自信をもって一歩踏み出してみてください。それぞれの進路での更なる活躍を期待しています。

進路課長 橋野 幸男

ご卒業、おめでとうございます。

いわゆる「VUCA時代」(先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態、

Volatility/Uncertainty/Complexity/Ambiguity の頭文字)に、「キャリア自律」を歩む一。そんな皆さんに、次の言葉を贈ります。仕事の最も大事な報酬は、『次の仕事機会』 Learning agility(学習の俊敏性)まず、前者です。よい仕事をして「貢献」し周囲の信頼を得ることで、「あの彼に、次はこの仕事を任せてみよう」と「よりチャレンジングな仕事 = 成長の機会(チャンス)」が与えられます。『機会』という報酬は、『未来の自分』を作っていく拡大再生産回路の『種』(組織/人事コンサルタント・村山昇氏の定義)です。このような考えは、複数の経営者・いくつかの企業(ソニー創業者・井深大氏、経団連会長・土光敏夫氏 / バンダイ、リクルート、など)で語られ、共有されてきました。一例だけ挙げると、バンダイ人材活性化プロジェ